

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価 (3月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①学部間の教育課程の系統性を検証・整理し、社会参加を見据え、発達段階に応じた教育内容の充実を図る。</p> <p>②ICT機器の活用の推進と学習教材、授業例の充実を図る。(継続)</p>	<p>①各学部で各教科等の系統的な教育内容と学部間のつながりについて整理する。</p> <p>②教職員向けにICT機器操作研修を行う。ICT機器を活用した授業実践例を共有し、授業改善につなげる。</p>	<p>①学部間の教育課程の系統性を整理できたか。</p> <p>②ICT機器を有効に使用した授業を実施することができたか。</p>	<p>①各学部において、年間指導計画の目標及び指導内容を系統的に整理するとともに、発達段階に応じたステップ表の作成や見直し等を行った。また、高等部では、職業の教科の指導内容の整理や職業評価票の作成を行った。</p> <p>②学部と情報担当で連携した研修会の実施やICT機器を活用した授業実践を行うとともに、各学部で指導案や教材等のデータ等の共有を行い、ICT機器を活用した授業の充実を進めることができた。</p>	<p>①各学部で作成や整理をしたステップ表等を実践し、改善を行うとともに、引き続き学部・部門間で教育内容について発達段階に応じて系統的に整理を進めていく。</p> <p>②引き続きICT機器を活用した教材授業実践例を共有し、授業改善につなげていくとともに、ICT機器を活用した授業実践について保護者向けに情報発信を検討していく。</p>	<p>①学部ごとに教育内容の整理を行ったようだが、学部間の系統性を整理するためには学部を越え組織的に研究を進める必要がある。</p> <p>②ICT機器は視覚的にわかりやすい支援・操作がしやすいといった利点もあるが、使用することそのものが目的にならないように、授業のねらいながら効果的な活用を進めていくとよい。</p>	<p>①授業実践を踏まえながら、ステップ表等のさらなる改善を図るとともに、発達段階に応じた教育内容の系統性について学部・部門を越えて組織的に整理を進め、小学部から高等部までの系統性のある教育内容をまとめる。</p> <p>②授業におけるICT機器の効果的な活用方法について研修や実践例の共有を進める。</p>	<p>①授業実践を踏まえながら、ステップ表等のさらなる改善を図るとともに、発達段階に応じた教育内容の系統性について学部・部門を越えて組織的に整理を進め、小学部から高等部までの系統性のある教育内容をまとめる。</p> <p>②授業におけるICT機器の効果的な活用方法について研修や実践例の共有を進める。</p>
2	児童生徒 指導・支援	<p>①校内表示等の共通化、校内環境整備を進め、誰にとっても分かりやすく活用しやすくする。(継続)</p>	<p>①担当医等の見解をもとに関係者間で医療的ケア児の適切な通学支援について検討し、環境整備を進める。</p> <p>②児童・生徒が視覚的にわかりやすい校内表示等の共通化を進める。また、教室等の安全な環境を整備する。</p>	<p>①関係者間で医療的ケア児の適切な通学支援について検討し、環境整備を進めることができたか。</p> <p>②校内表示等の共通化を図りわかりやすく整えたか。また、安全な校内環境を整備できたか。</p>	<p>①通学支援事業のうち、福祉車両等乗車による試行に向けて、関係の事業者との調整を進めてきた。年度内に、試乗を実施できるように手続きを継続中である。</p> <p>②各教室等の物品整理や配置の調整、目印や表示等、危険箇所について見直しを行い、児童生徒にとって安全かつ視覚的にわかりやすい環境を整備した。</p>	<p>①令和5年度に向け説明会を開催し、新たな希望をとる。関係各機関との連携を強化し、手続きの円滑化を図る。</p> <p>②今後も児童生徒が視覚的にわかりやすい校内表示を増やすとともに、定期的に危険箇所の確認等を行い、安全な環境の整備を継続していくことが必要である。</p>	<p>①ケアの有無にかかわらず通学通所は大きな課題。通学支援の充実が図れるよう県教育委員会に要望を上げる一方で、保護者も移動支援を探す努力が必要だと考える。</p> <p>②環境を整え児童生徒が安全に学校生活を送れるよう取り組んだことはよかった。ロッカーに設置した「よじ登り防止策」は効果的な方法として特に評価できる。</p>	<p>①医療的ケア児の福祉車両による試乗を1回実施することができた。スクールバスについては乗車に必要な条件を整えることができた。今後、乗車を試行しながら改善を図っていく。</p> <p>②教室等の物品整理と配置の調整、危険防止策を施すことで、事故やけがを軽減することができた。事故ゼロをめざしてさらに校内環境の整備を進める。また、発災時の対応について早急に校内体制を整え、訓練を実施する必要がある。</p>	<p>①医療的ケア児の通学支援を推進するために関係機関との連携を強化し、手続きの円滑化を図る。あわせて自立にむけた通学手段を確立するために小学部段階から継続的な指導を行う。</p> <p>②事故防止に向けて、定期的に安全点検を行い環境を整備する。また、災害時の初動対応を身につけるため、全校児童・生徒、教職員を対象に、避難・通報・消火訓練を年に2回以上実施する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	児童生徒一人ひとりの生きる力を育むためのキャリア教育を推進する。	①卒業後の社会生活を見据えた進路学習の系統性を整理する。(継続) ②全職員が進路指導・支援の現状や課題を理解し、進路担当と協働する場面を増やす。	①卒後の生活についての教職員の理解を深めるための研修等を実施する。各学部における進路学習を系統的に整理し、表にする。 ②進路を見据えた発達段階ごとの指導・支援について各学部で研修を行う。担任や相談担当等と連携し職場開拓やアフターフォローに取り組む。	①研修で教職員の理解が深まったか。また、各学部における進路学習を系統的に整理し、表にできたか。 ②進路指導・支援に係る現状と仕組みについて学び、職場開拓やアフターフォローなど進路担当と協働したか。	①各学部で進路担当と連携した研修を行い、教職員の進路に関する理解が深かった。また、学部間のつながりを意識した指導内容の整理や「身につけたい力」のステップ表を作成した。 ②各学部で進路研修や情報交換をするなど、学部と進路係で連携することができた。担任や相談担当等と連携し、事業所や家庭と協力しながらアフターフォローに取り組むことができた。	①各学部における「身につけたい力」について、引き続き学部・部門間で発達段階に応じた系統的に整理を進めていく。 ②研修に向け、内容や実施時期の検討や共有する時間の確保が課題。年間を通して行事が多くある中、より一層業務を精選し、取り組んでいく。	①ステップ表の幅を広げる意味では、職業評価票のABCを発達段階に応じたステップと捉え、小中高の系統的な指導に繋げられるとよい。 ②小学部段階から卒業後を見据えた教育の充実を図っていることがわかった。今後は、保護者むけにも進路を見据えた研修や経験交流会等を実施し、小学部段階から計画的に進路指導を行ってほしい。	①進路研修を通して卒業後の進路先や進路状況に関する教職員の理解が進んだ。今後は、卒業後を見据え学部間のつながりを意識した指導内容の整理を進める必要がある。 ②研修を通して各学部の教員と進路情報を交換した。また、担任や相談担当等と連携し、アフターフォローに取り組むことができた。今後は保護者に対する情報提供の充実を図る必要がある。	①卒業後を見据えたキャリア教育の充実を図るため、職業評価票等をもとにステップ表等を見直す。また、授業を実践しながら発達段階に応じた系統性のある進路指導内容について整理を進める。 ②進路担当が全職員と協働で取組めることを企画し、計画的に実施する。進路に対する保護者の意識を高めるために、小学部から高等部まで保護者を対象とした事業所見学会を計画し実施する。
4	地域等との協働	インクルーシブな社会の形成に向けたセンター的機能による発信と協働の充実を図る。	①地域との協働事業等を充実させ、児童・生徒が地域と相互理解を深めることのできる教育活動の充実を図る。(継続) ②障害のある児童・生徒が地域で実態に応じた教育を受けられるよう、地域の学校の特別支援教育に係る専門性の向上を図る。	①ボランティアバンク要綱を見直し、制度を整える。また、地域と共同で作品展や販売会を実施する。 ②特別支援教育に関する情報を地域の学校向けに発信する。また、地域の学校のニーズをふまえ、公開講座、研修会等を実施する。	①ボランティア等の受け入れ制度を整えられたか。地域と共同し作品展や販売会を実施できたか。 ②情報発信や公開講座等を行い、特別支援教育に関する地域の学校の専門性の向上を図ることができたか。	①ボランティアバンク要綱を見直したうえで、謝礼支払い制度の実施を始め、登録者数も増加している状況。シーサイドライン新杉田駅で作品展を実施した ②地域の学校向けにホームページ上に情報コーナーを設置し、校内の教材や支援方法を紹介した。また、地域のニーズの高い「進路」に関する講座や研修会を実施した。	①ボランティアへの謝礼は、予算の関係から学生には支払わないという内容で要綱を改訂した。地域資源を活用した作品展が実施できるよう準備を進める。 ②地域の学校等に、HPから情報を得て役立ててもらえるよう働きかける方策を検討する。チーム員を通じて校内の情報を収集できるシステム作りをする。	①コロナの影響で地域との交流が停滞している。また、教員不足が深刻化している。やりがいのある仕事、素晴らしい職場であることを発信する必要がある。 ②情報をホームページに公開するだけでは不十分。多くの人に情報が届くようにホームページ以外の媒体も活用し情報発信するとよい。	①要綱を見直したことでボランティア登録者が増加した。次年度は水泳指導等の学校行事も再開するため、ボランティア登録者をさらに増やしたい。また、企業や地域にある社会資源との連携も拡充を図っていきたい。 ②地域の学校のニーズに応じて巡回相談を行い、障害特性に応じた指導力向上に尽力した。また、支援だよりにホームページのURLを載せることで閲覧しやすくした。より多くの方に必要な情報が届けられるとよい。	①実習生や介護等の体験生にボランティア登録を呼びかけると同時に教職の魅力をアピールし人材確保の一助とする。地域や企業との連携を拡充するために、新しい協働事業を企画・提案する。 ②チームが中心となって校内の情報を収集し、ホームページのさらなる充実を図る。また、情報を役立ててもらえるよう、地域の学校にチラシを配布するなど効果的な情報発信のシステムを構築する。
5	学校管理 学校運営	信頼される学校づくりの推進のため、安全で安心できる指導体制及び管理体制を進める。	①情報発信の在り方を検討し、児童・生徒の学習活動や学校の取組みの発信を進める。(継続) ②働き方改革に向けた業務改善の推進に取り組む。(継続)	①ホームページや配付物による情報発信を整理し、保護者や地域の方に必要な情報が伝わるようにする。 ②業務効率化、意識改革を進めるとともに、グループ組織の業務内容の再編計画を具体化する。	①学校の情報発信について、保護者等からの評価が向上したか。 ②グループ業務内容の整理と具体的な組織の見直しが見えたか。	①ホームページの構成を見直し保護者や地域の方が必要な情報を得やすくした。ホームページやお便りを通して学習活動や学校の取組みを発信した。 ②チームごとに業務内容の見直しを行うとともに、グループ間で調整を図り、組織再編を行った。	①ホームページの更新をより円滑に進めていくために関係組織においても情報発信ができる仕組みを整備する。 ②令和5年度、新しい組織で業務を実践し、業務の効率化に向け、さらなる改善を図る。	①ホームページを毎日閲覧したくなる内容・構成、簡単にアクセスできる仕組みを構築するとよい。日頃の指導に活かせる「支援の知恵袋」の充実を期待している。 ②業務の多様化・多忙化により教員不足が深刻化している。教職の魅力・素晴らしさを発信し、人材を集める努力と質を落とさず業務を精選する必要がある。	①ホームページの構成を見直し保護者や地域の方が必要な情報を得やすくした。また、学年通信にQRコードを掲載しホームページにアクセスしやすくした。 ②チームごとに業務内容の見直しを行い、グループ業務の平準化を図ったが、業務内容によっては精選が難しいチームがあった。	①より多くの方に有効な情報を提供するために、ホームページ以外の情報発信手段について検討する。 ②業務の精選と校務分掌全体の平準化を実現するため、引き続き業務内容の精選と適切な人員配置に取り組むとともに、実習生や介護等の体験生に教職の魅力を発信する。

